

しきさい

2026
冬号

s h i k i s a i

三重県環境生活部環境共生局地球温暖化対策課

令和7年度
「三重県地球温暖化防止
啓発ポスターコンクール」
入賞作品一覧
(中学生の部)



最優秀賞

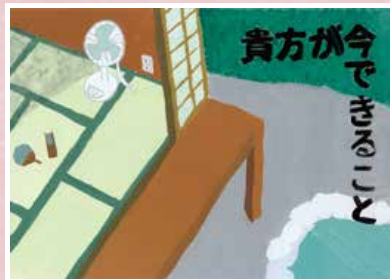
優秀賞



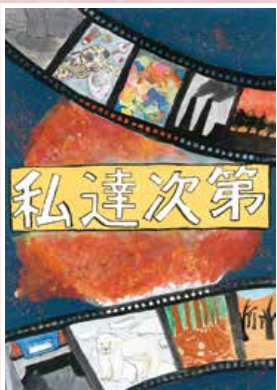
鈴鹿市立白子中学校2年生
澤本 夏実(さわもと なつみ)



三重大学教育学部附属中学校2年生
種村 実紗(たねむら みさ)



セントヨゼフ女子学園中学校2年生
上野 絢愛(うえの あやめ)



伊賀市立緑ヶ丘中学校2年生
左橋 夢琉(さし ゆめる)



志摩市立志摩中学校3年生
松本 柚夏(まつもと ゆずか)



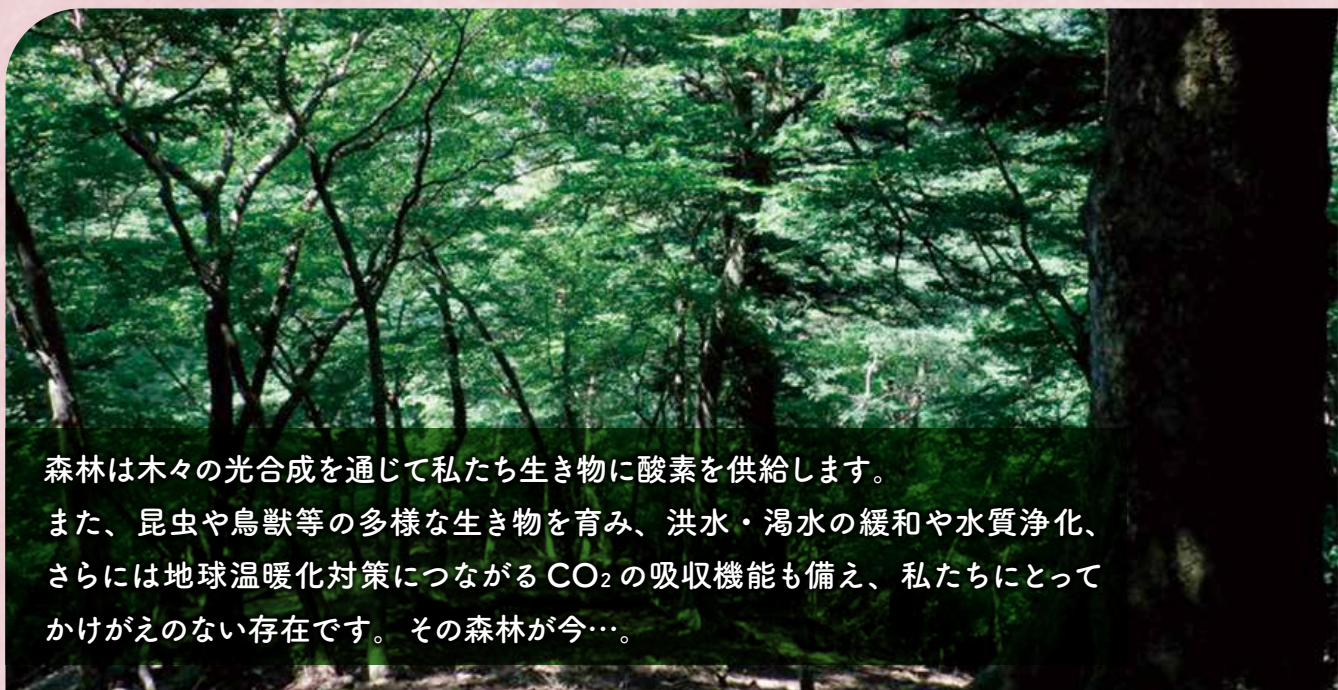
三重大学教育学部附属中学校2年生
服部 日葵(はっとり ひまり)



名張市立名張中学校1年生
森田 翔軌(もりた しょうき)

電子版「しきさい」は
こちら





森林は木々の光合成を通じて私たち生き物に酸素を供給します。
また、昆虫や鳥獣等の多様な生き物を育み、洪水・渇水の緩和や水質浄化、さらには地球温暖化対策につながるCO₂の吸収機能も備え、私たちにとってかけがえのない存在です。その森林が今…。

大規模な山火事の発生が、世界や日本各地で相次いでいます。2023年にカナダで発生した山火事では、1,500万ヘクタール以上(三重県の面積の26倍以上)の森林が焼失。日本でも、2025年2月に、岩手県大船渡市で(焼失面積3,000ヘクタール)、その後3月にかけて、岡山市や愛媛県今治市、宮崎市等、立て続けに発生しました。

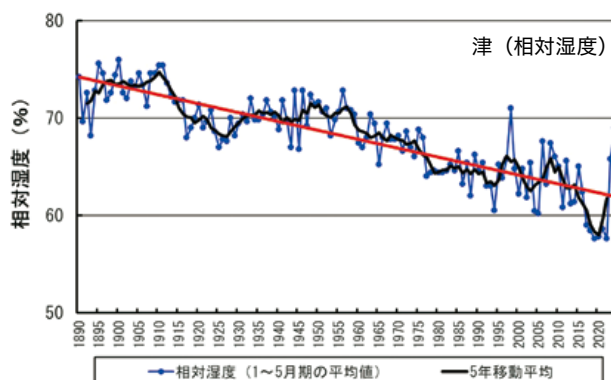
山火事は森林の焼失にとどまらず、人命を危険にさらし、家屋等にも大きな被害をもたらします。また、樹木が貯留したCO₂を再放出し、地球温暖化につながります。カナダの記録的な山火事では、世界の航空部門における排出量の約4倍に当たる30億トンものCO₂が放出されました(世界資源研究所)。この山火事的主要因は、高温で乾燥した天候にあったと考えられています。



■ データでみる山火事発生リスクの高まり

天気予報等でよく使われる「湿度(%)」は「相対湿度」のことで、値が小さいほど乾燥していることを示し、気象庁が発表する乾燥注意報の基礎データとなっています。

日本における山火事の発生は、1～5月に集中しています。その原因として、落葉が積もり燃えやすくなっていること、風が強いこと、農作業(野焼き)が活発化すること等があげられています(林野庁)。下図に、津の1～5月期における平均相対湿度の長期変化を示しました。この図によれば、相対湿度は低下傾向にあります(100年で約9%減少)。この傾向は、内陸部の上野(伊賀市)や沿岸部の尾鷲でもみられています。



津の1～5月期における平均相対湿度の推移 (気象庁HPのデータを元に作図)

インタビュー



伊賀市消防本部
参事兼伊賀消防署副署長
(消防司令長)
藤生 正樹 さん

2025年3月27日に伊賀市内で発生した山火事。消防車8台、ヘリコプター1機、総勢60人を超える消防隊員らが消火に当たり、約3時間後に鎮火。森林や田んぼのあぜ等、約8,000平方メートルを焼失し、けが人も1名発生しました。田んぼで焼いていた枯草の火が燃え広がったことが原因です。

どうすれば山火事を防ぐことができるのか。

当時、消火活動を指揮された伊賀消防署の藤生正樹副署長にお話を伺いました。



2025年3月伊賀市で発生した山火事(伊賀市消防本部提供資料)

Q 伊賀市内における2025年の山火事の発生状況を教えてください。

2025年の火災発生件数は10月15日現在で計70件。このうち山火事は6件で、3月(3件)に最も多く発生しています。全国同様、管内の山火事も春に多く発生する傾向があります。

A

伊賀市における令和7(2025)年の火災発生状況(伊賀市消防本部資料に基づく)

単位: 件

| 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月* | 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|
| 発生件数 | 10 | 5 | 13 | 5 | 5 | 4 | 5 | 13 | 9 | 1 | 70 |
| うち山火事 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 6 |

*10月は15日現在

Q 山火事の主な発生原因は何ですか。

A

2025年の山火事(6件)の原因は、農作業に伴う野焼き(枯葉等の焼却)の延焼(4件)と、ごみ焼却中の延焼(2件)です。伊賀市は山林や農地が広がり、野焼きが習慣的に行われています。この野焼きが原因で、周囲に延焼する火災が後を絶ちません。計70件の火災のうち48件は「その他火災」で、その大半(41件)を「野焼きによる枯草火災」が占めています。「枯草火災」は対応が遅れると周辺に火が回り、山火事や住宅火災に発展する危険性があります。こうした状況の中、伊賀市では2025年3月と9月に「枯草火災多発非常事態宣言」を発表し、市民に強く注意を呼びかけました。

Q 山火事は市街地等の平地で起こる火災に比べ、消火活動がかなり難しくなるのでは？

A

山火事の現場では、消火活動に使う「水」の確保がまず必要です。周辺に消火栓や防火水槽がないことが多く、河川や池等、使える水源を探さなければなりません。また、山間部は消防車が進入できず、ヘリコプターの要請が必要になることもあります。加えて、急こう配の斜面、樹木や獣害対策用の柵等が障害となり、消火活動も難航します。一方、山火事は飛び火で燃え広がる、再燃焼しやすい等の特徴があり、鎮火までに時間がかかるため、多くの人員が必要となります。こうした状況は現場ごとに異なり、一刻を争う中で難しい判断を迫られます。

Q 山火事の未然防止に向け、私たちができる対策についてご指導ください。

A

伊賀市では野焼きによる枯草火災が多発しています。屋外での焼却行為は法律により原則禁止されています。農作業等でやむを得ず野焼きを行う場合は、「枯草は1ヶ所に集めて燃やす」、「あらかじめ消火準備をしておく」、「強風の日は避ける」、「複数の監視員を付け、鎮火まで離れない」こと等を徹底してください。また、近年、気候変動により、山火事に限らず火災の発生リスクが高まっていることを認識し、これまで以上に火災予防の意識を高めていただければと思います。



地球を笑顔に 食品ロスを減らして、

国立環境研究所気候変動適応センターが展開している「#適応しよう」キャンペーン。今号では、15の項目で整理されている「適応アクション」のひとつ、「食品ロスを減らそう」を取り上げました。

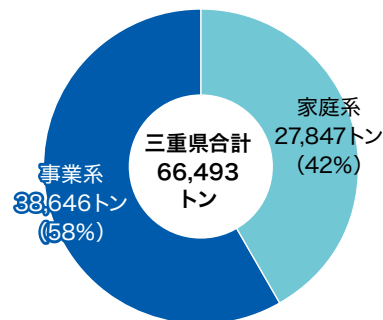
(詳しくは7ページをご覧ください)

食品ロスの現状を知ろう！

■ 三重県内における食品ロス発生量はどれくらい？

「食品ロス」とは、本来食べられるのに廃棄される食品のことで、三重県の調査によれば、県内における令和6年度（令和5年度実績）の食品ロス発生量は家庭系（各家庭から排出）で27,847トン、事業系（事業活動に伴う排出）で38,646トン、合計66,493トンもの食品ロスが発生しています。家庭系の食品ロス発生量を県民1人1日当たりに換算すると約43g。この重量は茶碗約3分の1杯分のごはんに相当します。

食品を廃棄すると、その製造、輸送、販売過程で生じたCO₂が余分に排出されることになります。食品ロスは「もったいない」だけでなく、地球温暖化にも影響を与えます。



三重県の食品ロス発生量
令和6年度調査(令和5年度実績)

■ 家庭からどのような食品ロスが発生している？

家庭系の食品ロスは、食卓に上ったものの食べられずに捨てられる「食べ残し」と、利用されずに捨てられる「直接廃棄」に分けられます。三重県の食品ロスは「食べ残し」より「直接廃棄」が多く、なかでも賞味・消費期限切れとなった「全く手付かずの食品」の廃棄が多くなっています。



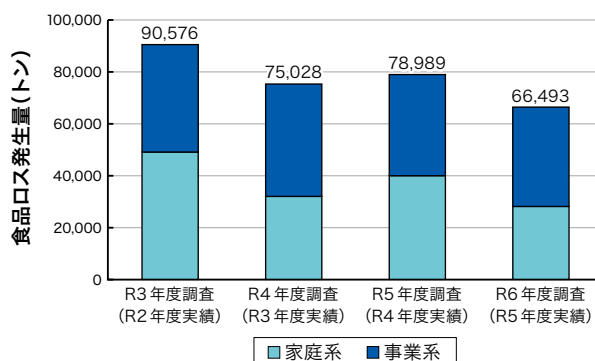
直接廃棄された食品：賞味期限切れ(レトルト食品等)



直接廃棄された食品：消費期限切れ(惣菜類・おにぎり等)

■ 食品ロス量は減っている？

三重県内の食品ロス発生量は、増減しながらも概ね減少傾向にあり、全国の動向と一致しています。近年の減少には、物価高騰による買い控えや、食品を無駄なく消費しようという消費者意識の変化が関与していると考えられます。



三重県の食品ロス発生量の年変化

食品ロス発生量が減少傾向にあるとは言え、依然、全国では約464万トン（環境省）、三重県でも6万トンを超える食品ロスが発生しています（いずれも令和5年度実績）。消費者庁によると、全国の食品ロス（約464万トン）によるCO₂排出量は1,050万トンで、家庭の冷房用として排出される量（840万トン）を上回るといわれています。

食品ロスについては、「持続可能な開発目標（SDGs）」のターゲットのひとつとして、「2030年までに世界全体の1人当たりの食料の廃棄を半減させる」ことが盛り込まれています。食品ロスを削減するには、私たち一人ひとりが食べ物を無駄なく、おいしく食べることが重要です。地球にやさしい、持続可能な食生活に改めていく必要があります。

※このページに用いたデータや写真は、令和6年度三重県食品ロス実態調査報告書（三重県環境生活部環境共生局資源循環推進課発行）から引用。

「いつも笑顔があふれる心豊かな地域社会づくり」を企業目標に掲げ、県内に29店舗を展開する地域密着型スーパーの「ぎゅーとら」。地域の環境保全にも力を入れ、令和7年1月には、地域における食品資源循環の仕組みをつくるため、リサイクルセンター「ほらへん」を開設しました。センターの開設に尽力され、その運営を指揮する安井正和総務課長にお話を伺いました。

「ほらへん」とは伊勢の方言で「捨てない」という意味だよ。



ぎゅーとらのキャラクター
コロケの妖精
「ココロケ」

■ リサイクルセンター「ほらへん」を開設した理由

ぎゅーとらの食品リサイクル率は81.3%（令和5年度実績）で、食品小売業としては高いリサイクル率ですが、環境負荷や処分コストの面でさらなる向上が必要です。リサイクル率の向上を妨げる主な要因は、一部の店舗（伊勢志摩地域や名張市等の11店舗）の周辺にリサイクル施設がないことです。これらの店舗から1日合計約370kgの食品残さ（大半が野菜・果実の未使用部分、以下「未使用部分」と言う）が発生していますが、これまでリサイクルできず焼却処分していました。そこで、未使用部分を肥料化する施設を自社に設置し、さらにこれを活用した地域の食品循環システムをつくらうと考えました。「ほらへん」はその核となる施設です。



店舗から出る未使用部分



■ 「ほらへん」を活用した地域での食品循環の流れ

「ほらへん」は松阪市にある流通センターに配置し、ここに11店舗から出た未使用部分を集約して、導入した食品残さ発酵分解装置を用いて肥料（一次発酵物）を生産しています。生産した肥料はぎゅーとら農援隊に販売し、肥料として使用、生産された農産物はぎゅーとらが仕入れ、お客様に販売しています。

令和7年10月時点で「ほらへん」による地域食品循環の取り組みに協力いただいている農援隊は1軒で、大根とブロッコリーを生産、納品してもらっています。「農作物の成長・品質も良好」、「高騰する肥料が安価で買える」等、この肥料への高い評価をいただいています。現在、テスト栽培中（ネギ）の農援隊も1軒あり、今後、さらに活動の輪を広げていきたいと考えています。

■ これまでの成果

「ほらへん」の稼働により、CO₂排出量が1ヶ月当たり約18トン削減され（令和7年1～4月の実績値に基づく）、ごみ処理コストも抑制できました。

鮮度バツグン！「ほらへん」由来の肥料で作った安全な循環型野菜をぜひご賞味ください。循環型野菜を食べて、環境負荷の削減にご協力いただければ幸いです。

食品資源の地域循環にとどまらず、各店舗では資源回収や値引きによる売れ残り（食品ロス）の削減等にも注力しています。ぎゅーとらは、環境を守るために「今できること、未来のためにできること」を考え、これからも挑み続けます。

※このページに用いたデータや写真は、株式会社ぎゅーとらより提供。



地域での食品資源循環の仕組み

三重県の適応 7分野

世界各地で気温の上昇等が起こり、三重県でも気候変動の影響が現れています。気候変動は、私たちの身近な暮らしに様々な影響を与え、その影響は今後さらに大きくなっていくかもしれません。

こうした気候変動の影響に対処し、被害を少なくする対策「適応」が重要になっています。

01

農林水産業

品質低下

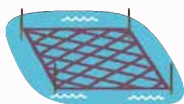
・お米※1



白未熟粒 整粒

収量低下

・イチゴ(炭疽病)

・黒ノリ養殖※7
(漁期の短縮)高温耐性
品種の開発

お米「結びの神」※1

病気に強い品種の開発

イチゴ※1



「かおり野」 「うた乃」

高水温耐性品種の開発



黒ノリ「みえのあかり」※2

考えられる適応策

現状・将来予測

02

水環境・水資源

渇水



水質悪化※7



考えられる適応策

節約・再利用な
どの工夫※7水質監視・水源の
安定的確保※7

現状・将来予測

03

自然生態系

藻場(磯焼け)※3

希少動植物 絶滅のおそれ
(ネコギギ)※4

藻場の保全再生活動※2

希少動植物の
モニタリングと保護※4

考えられる適応策

現状・将来予測

04

自然災害・沿岸域

土砂災害※7



浸水被害※7



現状・将来予測

ハザードマップの確認
避難経路の確認※7流域治水プロジェクト
(田んぼダム)※5

考えられる適応策

05

健康

熱中症※7



蚊媒介感染症※7



現状・将来予測

こまめな水分補給※7
エアコンの
適切な使用※7水たまりを作らない工夫
ヒトスジシマカへの注意※7

考えられる適応策

06

産業・経済活動

夏の屋外イベント
への影響

スキー場の雪不足※7



生産設備などへの影響※7



現状・将来予測

ミストで
涼しい環境に

人工降雪機の活用※6



事業継続計画(BCP)の策定※7



考えられる適応策

07

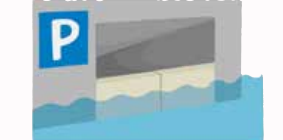
国民生活・都市生活

さくらの開花日の早まり※7
紅葉時期の遅れ※7インフラへの
影響

現状・将来予測

植物の開花や紅葉などの
生物季節の観測※7

止水板等での浸水対策



考えられる適応策

地球沸騰化時代の生き方改革

井 適応しよう Let's adapt!

国立環境研究所 気候変動適応センターでは、猛暑や大雨が当たり前となる地球沸騰化時代においても、快適な暮らしを実践できるよう、“15の適応アクション”の普及を進めています。

三重県・三重県気候変動適応センターもその賛同パートナーとして、情報発信や普及啓発に取り組んでいる「#適応しよう」キャンペーン。5つのカテゴリーからなる“15の適応アクション”について紹介します。



みんなが思う
「普通の夏」が、変わります



考えたい、
服の選び方と別れ方



スマホが使えなくても、
家族と再会できますか？



1年にたった一度の確認で、
守れるものがある



未来の地球人は
何を食べている？



わたしたちは毎日おにぎり
1個分の食料を捨てている



地球が暑くなると、
電力不足になる理由



水が自由に使えない未来を
想像できますか？



オシャレなだけじゃない
驚くべき緑の効果



災害大国・日本には、
たくさんの知恵がある



スポーツを
安全に楽しむために



パフォーマンスを下げない、
クールな試合の挑み方



刺されただけで、
終わらない脅威



新発想は、
ピンチから生まれる



小さな習慣で、
大きく変わる

#TEKIOU SHIYO
15
ACTIONS
FOR A COMFORTABLE LIFE

詳しくは
こちらから



令和7年度 三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール 入賞作品展示スケジュール

令和8年1月10日(土)～1月29日(木)

MieMu 三重県総合博物館

【津市一身田上津部田 3060】

令和8年1月31日(土)～2月15日(日)

津松菱百貨店

【津市東丸之内 4-10】

令和8年2月21日(土)～3月4日(水)

三重県立熊野古道センター

【尾鷲市向井 12-4】

令和8年3月11日(水)～3月23日(月)

三重県上野森林公園

【伊賀市下友生1番地】

※各施設の休館日は除きます。展示予定は変更になる場合がありますので、三重県環境学習情報センターのホームページ等でご確認ください。



ポスターコンクール
入賞作品発表のブログ URL

三重県気候講演会の開催について

地球温暖化の現状や気候変動への理解を深めるために、津地方気象台と県が連携し「三重県気候講演会」を開催しています。

今年度は「肌で感じる気候変動、今こそ“みんなで” 適応アクションを」をテーマに、県内の気候変動の影響と適応の取組に加えて、皆さんと取り組む適応アクションについて講演を行います。ぜひご視聴ください。

公開期間 令和7年12月15日(月)から
(オンライン開催) 令和8年 2月23日(月)まで

申込方法 令和8年2月16日(月)までに
申込フォームからお申し込みください。



申込フォーム

令和7年度 **三重県気候講演会**

～肌で感じる気候変動、今こそ“みんなで” 適応アクションを～

夏の猛暑 極端な大雨 海水温上昇

令和7年12月15日
～ 令和8年2月23日

オンライン開催 **参加無料 要申込**

講演1 気候変動で変わる暮らし
～スマートに生きるための15の適応アクション～

講演2 近年の天候・海況と地球温暖化

講演3 三重県の水産業
～気候変動に対応した水産研究所の取組～

講演4 三重の海があぶない？
～地域全体で支えるサステナブルな漁業～

主催：津地方気象台、三重県 後援：地球ウォッチャーズー気象友の会

デコ活を楽しく学習できるデジタルコンテンツ

「みえデコ・ビルダーズ」を開発中！

○みえデコ・ビルダーズとは

- ・脱炭素社会をテーマとした環境経営シミュレーション
- ・三重県の自然や街並みを背景に持続可能なエコタウンを築く体験を提供します。
- ・プレイヤーは、何もない土地からスタートし、省エネ住宅・太陽光パネル・次世代自動車等の設置、自転車の利用、植林等のデコ活アクションを行うことでエコポイントを貯め、環境悪化の象徴であるCO₂ドラゴンと戦いながら、脱炭素社会の実現を目指します。



お楽しみに！

